

中野市行政改革推進委員会 会議録（概要）

日 時	平成 26 年 10 月 30 日（木） 10：00～11：55
会 場	市役所 31 号会議室
出席者	<p>【委員】 山田委員、横澤委員、小山委員、北村委員、岡村委員、丸山委員、渡辺委員、小林委員、市村委員、湯本委員、藤澤委員</p> <p>【市】 市長、健康福祉部長、子ども部長、くらしと文化部長、経済部長、豊田支所長、教育次長、議会事務局長</p> <p>【事務局】 政策情報課長、行政管理係長、宮崎副主幹、小林主査</p>
欠席者	<p>【委員】 涌井委員、東委員</p> <p>【市】 建設水道部長、消防部長</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 自己紹介 4 会長、副会長の互選について 5 会議事項 第 3 次中野市行政改革集中改革プランについて 6 その他 7 閉会
資料	<p>資料 1 中野市行政改革推進委員会条例、名簿</p> <p>資料 2 第 3 次中野市行政改革大綱</p> <p>資料 3 第 3 次中野市行政改革集中改革プラン</p>

1 開会

(政策情報課長)

2 市長あいさつ

- ・5月の諮問、7月の答申を経て、「第3次中野市行政改革大綱」を策定したが、改革の具体的な取組項目が未策定のままとっていた。
- ・大綱の実現に向け庁内で検討した結果、「第3次中野市行政改革集中改革プラン」を策定したので、今回はその説明をさせていただき、皆さまかのご質問やご意見を頂きたい。

3 自己紹介

(省略)

4 会長、副会長の互選について

- ・会長に丸山委員、副会長に小山委員が選出される。

(市長は別の公務のため退席)

5 会議事項

第3次中野市行政改革集中改革プランについて

【会長】

それでは、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料2を説明)

【会長】

資料2の関係でご質問等ありますか。

【会長】

無いようですので、続けて資料3について、説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料3を説明)

【会長】

資料が多く、新しい委員もおられますので不明な点等あることと思います。それでは、委員の皆さんからご意見を頂きたいと思います。

プランについては、ボリュームがありますので、最初に「自主財源の確保」の12のプランについて、ご質問、ご意見合せて伺いたいと思います。

【委員】

滞納繰越分とは、何の数字なのか。

【事務局】

滞納繰越分とは、本来、その年に課税したものはその年に納付いただくのですが、納付いただけなかった分を次年度以降に繰越すという形にしております。例えば、今年度課税したもので、納付されなかった分は平成27年以降に計上し、その内、納付いただいた分のパーセンテージの数字となっております。

【委員】

つまり、滞納になった分の総額のうち、納付された割合でいいのか。

【事務局】

そのとおりでございます。

【会長】

滞納繰越分の割合については、数値が大きければ良いということか。

【事務局】

そのとおりでございます。

【委員】

介護保険料は年金から引き落とされていると思うが、それでも滞納となることがあるのか。

【健康福祉部長】

介護保険料については、原則、いわゆる特別徴収ということで年金から自動引き落としとさせていただいておりますが、一定の所得以下の方々には、普通徴収といたしまして、現金で直接納付いただいております。その部分について、納付が滞っているというものがあります。

【委員】

先ほどの滞納繰越分で、滞納分とは何年分のことか。

【事務局】

税目等によってそれぞれ違っております。基本的には法律による債権の時効により税目等で違ってございまして、5年から2年が基本となっております。

【会長】

2年というのものもあるのか。

【事務局】

年数については原則でありまして、差押え等の行為により時効は中断されることとなっております。

委員の質問に対して税目等毎の滞納繰越分年数については、手元に資料がございません。

【委員】

プランに関係ないことだが、生活保護について、市ではどのように考えているか。

あと、人口減少で歳入が少なくなってくると推計しているが、その補填としてどのようなことを考えているのか。

【会長】

生活保護についてとは、どのようなことか。

【委員】

一般的に生活保護費が増えていると聞くが、自立させるための手段などを教えて欲しい。それぞれ事情がある方々だが、市は金銭的な援助だけではないのか。

【健康福祉部長】

生活保護費の受給に至ってしまう方々には、一人暮らしの高齢者の方で重なる疾病をお持ちで就労ができない方々もおられます。ご指摘は、主には稼働年齢層の方々のことだと思いますが、新年度からは国の制度のもと、生活困窮者対策という新たな枠組みが発足いたしまして、生活保護に至る直前の段階での相談や支援を行い、生活保護に至らないようにする施策の展開を図ることとしております。

市では、生活保護費を支給することのみを目的としているわけではなく、自立支援や就労支援等を行っておりますし、今後もそのように推進していきたいと思っております。

【委員】

支援とは、どのような支援なのか。

【健康福祉部長】

基本的には相談事業ということで、現状の把握とお困りの点とご要望の点を把握に努めております。具体的には、職業相談所と連携をしながら適切な就労の場面の確保、そこに至らない方々へは、社会福祉施設と連携を図りながら就労に結び付けているところでございます。

【委員】

人口減少に対する市で取り組んでいる対策はあるのか。

【会長】

人口が減らないようにするための対策ということか。

【委員】

プランの中にある満足度調査とも関係してくるのだが、市民が満足できる市にするために考えていることと、人口を増やすための政策施策をしているのかということである。

【事務局】

大変難しいご質問ですが、全国的な人口減少傾向という中で、国はもちろん各自治体で政策施策を考えております。一般的に言われていることを実行して行くことだと思います。子育てをしやすい環境づくり、安全安心のまちをつくるなど、つまり、住むところとして選んでいただけるようなまちづくりをするということでもありますので、有効な手段というものは今のところ無いように感じています。

ですので、総合的に中野市は暮らしやすい、できたら、地域の特色を發揮していくことの積上げしかないと思っております。国では様々な施策を展開しておりますが、それについて、市では、できるものは取り組んでいくということをいたします。今後、歳入は減っていきますが、知恵の出し合いで市民の皆さまからご意見をうかがいながら人が流出しない、人が入ってくる施策を考えていくしかないと思っております。

【委員】

武蔵大学の学生さんたちが農家へお手伝いに来てくれた。空いている民家を提供して食と農に対して意見交換をした機会があった。その時に、このような土地に住みたいという学生さんたちが多く、この土地に来てみないとわからないことがたくさんあるのだと思った。当初、宿泊先や学生さんたちを受け入れてくれる家が無くて困った。私が思

ったことは、帯の瀬ハイツに宿泊施設があれば調理ができて良い体験の場になると思い農協に聞いたら、市の施設ということであった。市ではそのようなことを考えていないのか。

【経済部長】

今、手元に資料がありませんので具体的な利用基準は申し上げられませんが、帯の瀬ハイツについて泊まっていただくことは可能となっております。

【委員】

自主財源の確保というテーマから離れてしまっているが、今の事務局の説明で気になったことがあったので発言させていただきたい。

確かに、人口減少を食い止め、人口を増やす決定的な対策は無いと思う。しかし、以前の本委員会でも発言したが、結婚していない人に結婚してもらうことが重要だと思う。

そういう人に結婚してもらうには色々なやり方があるが、単なる個人の問題として欲しくない。

【事務局】

確かに委員さんの言うとおりに、人口を増やすには自然増といひまして出生と死亡を逆転させる方法と、転入を増やし転出を減らす方法とがありますが、死亡してはいけないとか、結婚するしないを施策とすることは難しいこともあります。行政としてできることは、結婚に結びつくような出会いの場を創出するとかになると思います。施策として可能なことは、転出転入の施策であり、つまり、中野市を住居として選んでいただけるようにすることが一番であると思っております。

【子ども部長】

市としてはイベント等で出会いの場の施策をしており、子ども部としては、安心して出産育児が出来る環境を備え、子育てしやすい中野市を目指しております。

【委員】

私の長男が社会福祉協議会主催の婚活イベントで結婚できた。社協の皆さんには感謝しているところである。市でもそのような支援をどんどん行って欲しい。

結婚しないで老後を迎えるのは非常に寂しいことだと思う。そういう人を説得して結婚してもらうということを市と我々市民とで取り組んでいくことが一番大切さと思う。

【会長】

次に、歳出の見直しに関する3つのプラン、公共施設の最適化に関する22のプラン

について、ご意見ご質問はありますか。

【委員】

16 番の「各地区コミュニティー消防センターの集約化」について、コミュニティー消防センターとはどういった施設の何を指すのか。

【事務局】

消防団において、消防自動車を置いてある施設のことでございます。

【委員】

町部の方々には感じないかもしれないが、私のように田舎に住む者からすれば、昼間、若い人は集落を離れ稼ぎに出て老人ばかりになっている状況で、消防施設が集約されると、火事の際に火を消す物が無くなってしまわないかと心配である。そのようなことが無いようにしていただきたい。

集約化するにしても、各集落にある少人数で持ち運べるC型という小型可搬ポンプまで集約化しないようにしていただきたい。

【事務局】

担当部局へ伝えておきたいと思います。

【会長】

分団を再編するという検討に入っているのか。

【事務局】

分団再編の調査をしていきたいということでもあります。団員数の確保が難しくなってきたという問題意識から出されたプランであり、地域の防災力を保つことを大前提に総合的に調査をしていくものと思っております。

【委員】

歳出の見直しは細かな問題である。公共施設については 15 ページになる別途検討となっている施設をどうするかが非常に大事だと思う。

それとは別に、議員の定数とか議会の歳費を見直すというのは、行政改革の審議の対象にならないのか。

【議会事務局長】

議会の中では、議会改革検討委員会というものを設けまして平成 18 年頃から検討を

行っております。定数の関係につきましては当時 22 名だったものを 20 名に減らしました。議員歳費の関係につきましては、他市の状況等を調べ特別職報酬等審議会という市の理事者や議員の報酬を審議する機関であります但し検討をしているという状況でございます。

議会改革は、行政改革の分野とは異なるものとなっております。

【委員】

一般市民からすると、議会に対しても色々意見があると思う。市民に対して意見を求める場があっても良いと思う。

【会長】

他の委員の意見も聞きたいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

私は転勤族で長野県内を周っておりますが、中野市に来まして感じるのは自然が豊かで、子どもを転校させて来ましたが教育面でも非常に良い所だと思っている。

人口減少の波は抑えられず苦しい面もあるが、そのような中で、公共施設等の見直し進めて活気ある中野市づくりをしていただきたいと思う。私どももできる限りの役に立たせていただきたい。

【委員】

人口減少の中で、中野市が住み良いまちに発展していき魅力ある中野市になることを望む。今回、初めて委員となり意見も出せなかったが、より良い中野市になって欲しいと思う。

【委員】

保育園に入所してくる子どもたちは支援センターを利用してきた子どもたちが多くいる。コミュニケーションの経験を積んで保育園に入所されることは、保育士として非常にありがたいと感じている。子育てをされている母親からはとても良い場所だという声を聞く。プラン番号 27 の北部子育て支援センターの解体とあるが、利用者が増加傾向にある中、代替施設で対応していくこととしてあるのは良いことである。

たくさん施設がある中、一つひとつ検討してあるので、このとおりに推進していったらいい。

【委員】

8 ページのプラン番号 17 の給食センターについてと地域振興課関係の施設について

伺いたいですが、まず、相対的に聞きたいのは、職員の皆さんは人口減少について報道で発表されているものより、はるかに進んでいるということは認識されていることと思う。年間350人程度しか生まれていない状況と75歳以上の人が15年後にどのくらいの人数になるのかということを中心に把握しこのプランを策定したのか。

飯山新幹線が開業する。飯山市、木島平村、野沢温泉村は開業に向け民間や行政で様々なことを考えている。しかし、今回の資料にそのようなことの記述が無い。特に、豊田地域の施設について、プランがいくつかあるが、このプランで本当に「緑豊かなふるさと」を実現できるのか疑問である。もっと総合的に施設のあり方のプランを打ち出した方が良いと思う。

先の9月に小学校及び中学校適正規模等審議会が答申を出した。教育委員会の関係であるので本プランとは別と思うが、それも加味する必要があると思う。

いま一度このプランをよく検討し、質問等をしたいと思うので時間を頂きたい。

【委員】

私は、市の方で良く練って策定されたプランであるのだろうと思っている。

行政改革というと削減することが目的と思われるがちだが、そうではなく、市民が満足できる生活を送れるかということが本当の目的であると思う。

手段と目的を間違えると結果が違ってくる。削減が目的ではない。削減は手段であり、住み良い中野市を作るための手段が削減である。先ほど、委員も言われたが、目的のためにいろいろ検討していかなければいけない。余っているから無くせばいいというような単純な発想であってはいけない。

【委員】

私も削減だけではいけないと思う。確かに、利用しないのなら税金の無駄遣いになるので無くして欲しいとは思ふ。その反面、自分がこの市に生まれ誇りを持って周囲の人々に中野市に来て欲しいと言えるような市になって欲しいとも思う。例えば、温泉の利用が少ないのであれば、温泉利用助成券を高齢者だけではなく若い人々にも配布するなどして施設の活用を図り、中野市の良さを市民に知ってもらい、誇りに思えるようまちづくりをして欲しいと思う。

【副座長】

プランの中で協議や検討という言葉が目立つ。担当課で具体的に期限を立てられないからこのような書き方になってしまうのかなと思うが目についてしまう。

行政任せではなく、市民もより多く意見等を言えればより良い中野市になっていくのではないかと感じる。

【委員】

前に戻って恐縮だが、介護保険料のことで、以前テレビで老後破産というのを知った。中野市においてそのようなことはあるのか。

自主財源の確保のプランでは、主な取組内容に財産調査、差押処分とあり、このようなことをすれば、益々老人破産が増えるのではないかと心配である。

【健康福祉部長】

法的な自己破産とそうでない自己破産とがあるかと思います。日本では、国民皆保険制度ありますが、様々な問題が生じております。

市では、老後破産は把握しておりませんが、生活困窮者対策の一層の推進が求められておりますので、積極的な取組を進めて行くとともに、民生委員さんや区長さん、関係団体や関係機関等と連携を図りながら進めております。そのような中で、より良い施策展開をできればと思っております。

【会長】

資料を見てこの場で質問、意見等を出し尽くせていないように感じるが、この次の会議の予定を教えてください。

【事務局】

2月頃、来年度の目標設定等をさせていただきたいと思っております。その際、今回頂いたご意見等を反映させてプランを実行して行きたいと思っております。

【会長】

2月の目標設定時に今回の意見を反映するということだが、もっとよく検討したいという委員もおられる。もし、今日の会議で発言したりない場合は、事務局へ提出することとしてよいか。

【事務局】

はい。なお、2月には、プランについて具体的な取組を示していきたいと思っております。それについて委員さん方々から、やり過ぎだとか、急ぎ過ぎだとか取組が足りないとかの意見等を頂いて見直しを繰り返していきたいと思っております。

【委員】

資料を事前に配布いただければ、自宅で検討できるので、今後は事前配布にいただきたい。

【会長】

それでは、今回の資料について意見等がありましたら、改めて事務局へ提出していただきたい。

行政改革すべてがこのプランの中で出来るという訳ではない。行政改革の中でも、最優先、重要な事項から取り組んでいくということだと思う。各委員においては、今日提示のあった資料を再度検討いただき、また、今後事務局から届く資料を検討しながら2月の委員会に備えていただきたい。

6 その他

7 閉会

終了 11時55分